

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援センターえるびあサード		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 24日	～	2026年 3月 9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22名	(回答者数)
○従業員評価実施期間	2026年 2月 24日	～	2026年 3月 9日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所の強みは、家庭的で温かい雰囲気の中で、安心して療育を受けられる環境を整えている点です。 利用児童一人ひとりの気持ちに寄り添い、職員が丁寧に話を聞くことを大切にしているため、安心して自分の思いを表現できる関係づくりができています。	日々の支援において、児童の気持ちに寄り添いながら丁寧に話を聞くことを意識し、安心して思いを表現できる関係性の構築に努めています。	より質の高い支援を提供できるよう、職員間での情報共有を密に行い、支援内容の見直しや改善に継続して取り組んでいます。また、研修への参加や事業所内での話し合いの機会を設け、職員の専門性向上と支援力の強化に努めています。
2	保護者とのコミュニケーションを大切にしています。	保護者との連携を重視し、送迎時や連絡帳、面談等を通して情報共有を行い、信頼関係の維持・向上に取り組んでいます。	さらには、保護者との連携を一層深め、児童の状況に応じた適今後には、保護者との連携をより一層強化するため、面談や相談の機会を適宜設けるとともに、児童の状況について継続的な情報共有を行い、家庭と事業所が連携した支援体制の充実に努めています。
3	長期間継続して利用している児童が多く、安心して通うことができる環境が整っています。	児童が安心して継続して通所できるよう、日々の関わりの中で信頼関係の構築を大切にし、落ち着いて過ごせる環境づくりに努めています。	継続して安心して通所できる環境を維持するため、児童一人ひとりの状況について支援が行えるよう努めています。

	事業所の強み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	継続して利用している児童が多い一方で、新しい取組や支援方法の導入が十分でない面があります。 今後は、研修や情報収集を通して支援内容の充実を図り、より多様なニーズに対応できるよう改善していく必要があります。	研修への参加や職員間での話し合いの機会を増やし、支援の質の向上につなげていく必要があります。	職員間での情報共有を徹底し、共通理解のもとで支援を行うことで、継続利用している児童に対しても発達段階に応じた適切な関わりができるよう工夫していく必要があります。
2	近所の保育所や施設との関わりがない。	近隣の保育所や関係施設との関わりが少ない要因として、日々の支援を優先する中で、外部機関との連携を図る機会を十分に確保できていないことが挙げられます。	近隣の保育所や関係施設との連携を深めるため、情報共有や交流の機会を意識的に設けていく必要があります。
3	個々の児童に合わせた支援を大切にしている一方で、活動内容が固定化しやすく、新しい活動や経験の機会が十分でない面があります。	個々の児童に合わせた支援を重視しているため、安全面や特性への配慮から活動内容が固定化しやすく、新しい活動を検討する時間を十分に確保できていないことが要因と考えられます。	活動内容の充実を図るため、職員間で活動の見直しや新しい取組について検討する機会を設け、多様な経験ができるよう工夫していく必要があります。